

弄

1 2 3 4 5 6 7

直筆中鋒を書く

風

1 2 3 4 5 6 7 8

横画の始筆は押さえすぎない
必ず止めて同じ太さで同じ間隔で書く

上へフキ出す

そり

花

1 2 3 4 5 6 7 8

内円外方
ではねる

遅

1 2 3 4 5 6 7 8

下から徐々
に太くする

蝶

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

風遅く蝶花を弄す
かぜおそ ちようはな ろう

春日遅々として蝶花に戯れる。
(真義の詩)

特徴がある。

直線的である。全体に、上に狭く、下に広い

タテ長、厳格で、切れ味鋭い筆法、背勢で

「倣書の極則」と評されている。字形は端正、

倣書(背臨)で書いています。九成宮醴泉銘は

欧陽詢(唐)の九成宮醴泉銘から字を集めて、